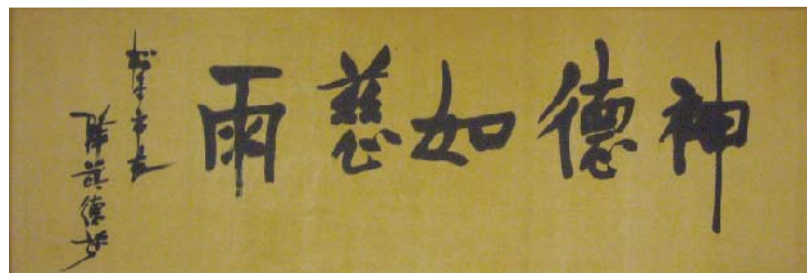
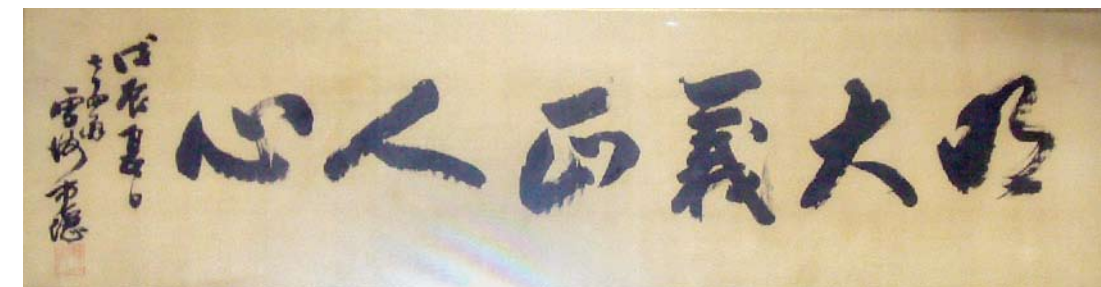
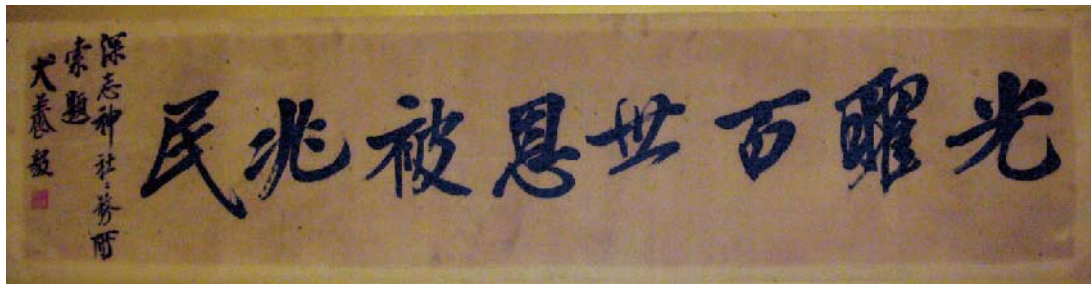


揮毫額の紹介

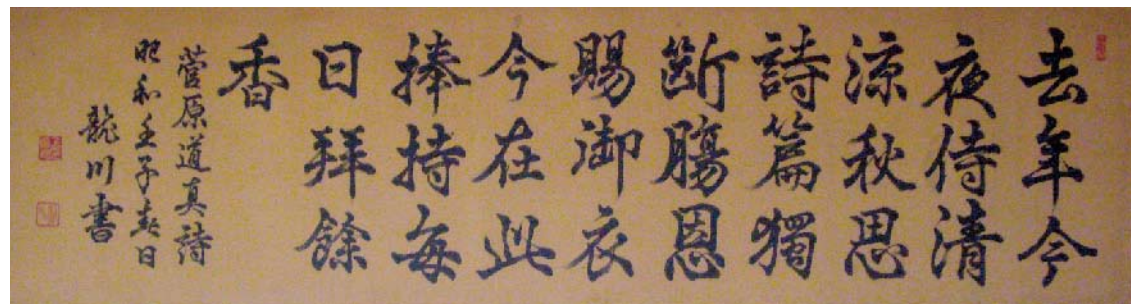
社内に掲げられている
揮毫額を紹介いたします。

■「大義を明らかに 人心を正す」

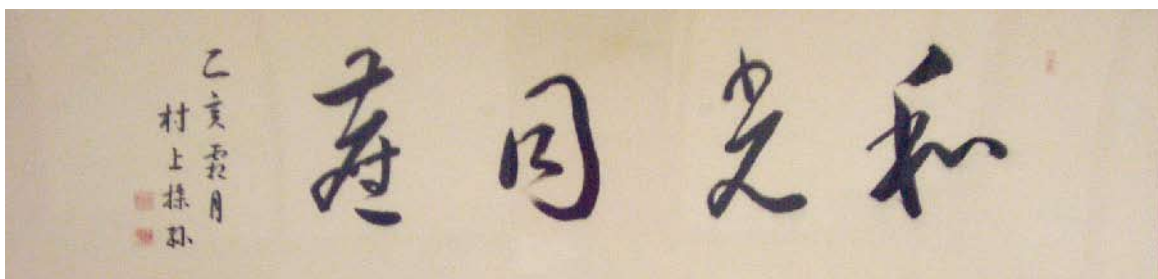
小里頼水（雪洲市隠）
安政2年～昭和16年
松本市長 昭和3年揮毫
〔社務所〕



■菅原道真公
「去年今夜」の漢詩
上野龍川（篤司）書家
松本市芸術文化功労表彰
（昭和62年）
〔斎館梅の間〕

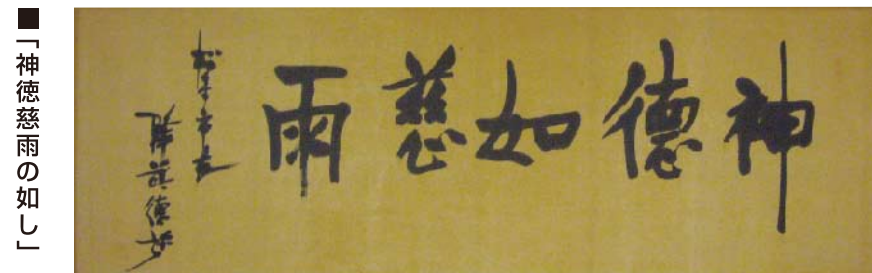


■「和光同塵」
村上模孫（忠雄）書家
松本市芸術文化功労表彰（平成元年）
元深志神社氏子総代 平成7年揮毫
〔斎館菊の間〕

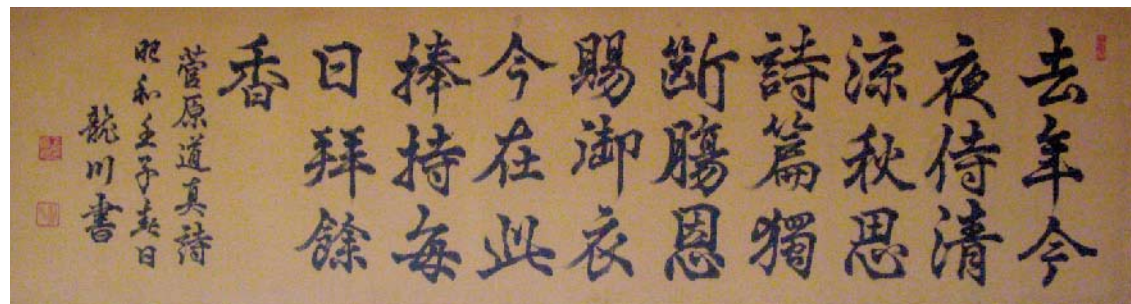


■「光百世に耀（は）やき 恩兆民被る」

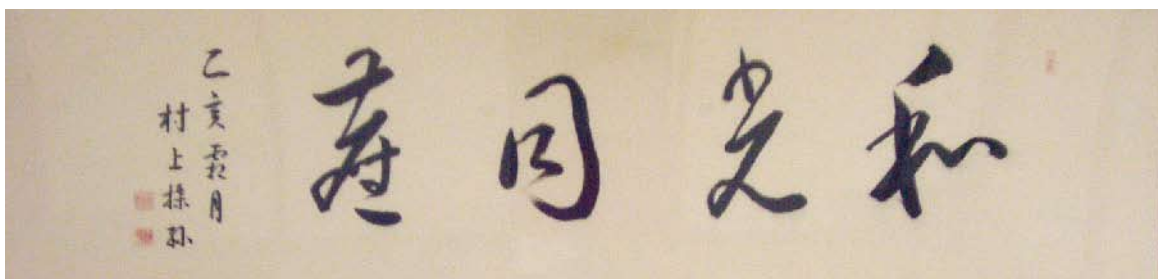
犬養毅（木堂）安政2年～昭和7年
内閣総理大臣
揮毫年代 深志神社との関わり不詳
〔斎館竹の間〕



■「神徳慈雨の如し」
降旗徳弥
明治31年～平成7年
松本市長 昭和32年～44年
〔斎館松の間〕



■「学（ま）びて思（おも）います」
上條信山（周一）書家
明治40年～平成9年
松本市名誉市民文化功労者
（平成8年）
〔斎館瑞垣の間〕
（この揮毫を、大前敏雄元中
条東三氏子総代が漆塗表
装した額を天神会館ききよ
うの間に掲げる。）



松本深志舞台保存会だより《7》

■舞台（山車）の修復広がる

去る5月22日、深志神社梅風閣にて平成22年度の松本深志舞台保存会総会が開かれました。今年は改選年度で役員改選が行われましたが、的場会長が引き続き会長職を務めることになりました。

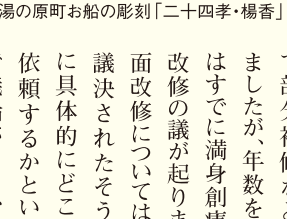
総会の新年度事業計画で舞台の修復は本町5丁目が今年度のスケジュールに入りました。そしてもう1台は里山辺の湯の原町の湯の原町のお船は協力することになりました。

湯の原町のお船は「里山辺お船祭のお船」の名称で県宝に指定されている9台のお船の中の一艘で、毎年5月4・5日の須々岐水神社の祭礼に曳かれます。建造は安政4年（1857）立川富重・富種により制作され、二十四孝や唐獅子などの彫刻が素晴らしい、9台の中でも特に豪華な一艘です。

どうして山辺のお船の修復に深志舞台保存会が関わるようになったのかと言いますと、近年、湯の原のお船は彫刻などに傷みが出て部分補修など行っていました。また、年数を経たお船はすでに満身創痍で、全面改修の議が起りました。全面改修については速やかに議決されたそうです。次に具体的にごく修理を依頼するかどうかというところで議論があり、具体的な業者名も挙がりましたが、貴重な文化財の修復は然るべき所ではなくてはならないと意見が出て、深志の舞台修理プロジェクトに白羽の矢が立ったのだそうです。信州大学と契約を結んで学術調



湯の原町お船の彫刻「唐獅子」



湯の原町お船の彫刻「二十四孝・楊香」

■本町二丁目・伊勢町三丁目 舞台の修復完了

昨年からの改修を行ってきた本町二丁目と伊勢町三丁目の舞台が無事に完成しました。本町二丁目舞台は6月24日に入魂式を行いました。この舞台は昭和9年の建造で比較的新しい舞台ですが、輪覆いに網代のデザインを使うなど、古き良き深志舞台の姿を残しています。太田南



竣工の成った本町二丁目舞台

ふかし 深志神社社報 第10号

発行日 平成22年7月1日
発行所 深志神社社務所
〒390-0815 松本市深志3丁目7番43号
電話 0263-32-1214
FAX 0263-32-5908
http://www.fukashi-tenjin.or.jp
印刷 (株)日本広告



新フロントタビ

梅風閣外観

平成22年4月1日、深志神社梅風閣がリニューアルオープンしました。梅風閣は平成7年の開業以来、結婚式披露宴を中心に営業してきましたが、15年振りに一部内装の改装とともに営業態勢を一新して生まれ変わりました。

梅風閣が リニューアルオープン!!

この度のリニューアルでは経営形態とともに従事者が一新されました。特に厨房は料理長と調理師さんがすっかり変わりましたが、料理は全く新しいものになりました。三月末に氏子町々会長をはじめ関係者をお招きし、プレ・オープンの午餐会を開催しましたが、料理の評判は頗るよろしく、オープン後も大変好評をいただいております。

フロントとサービスは今まで人間が数名、神社に籍を移して残すことになる、これまで梅風閣をご利用いただいている方々にも不都合をお掛けしない態勢を敷くことができました。

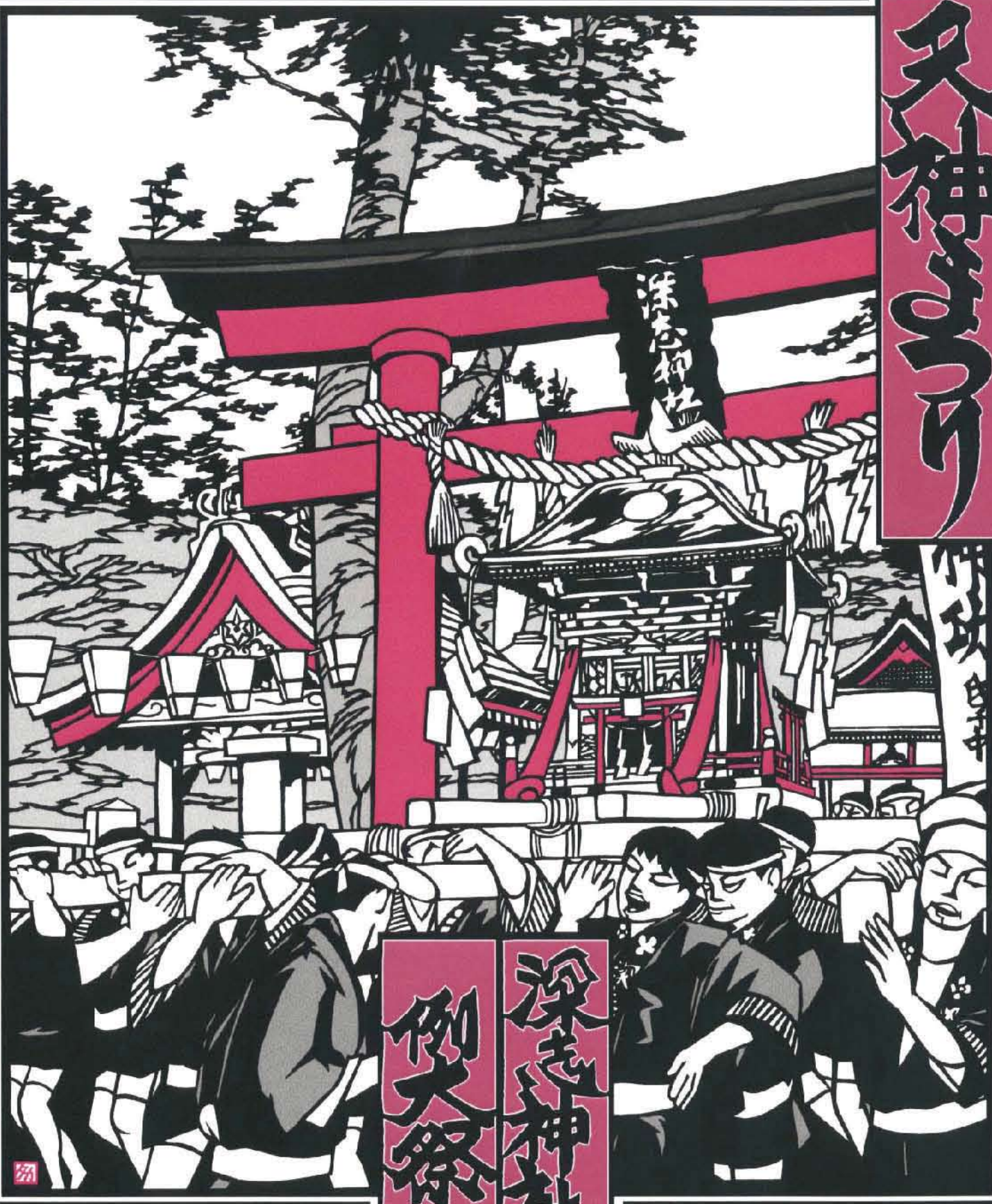
梅風閣は総合結婚式場、各種会合会場としての営業が中心ですが、初宮参り・初誕生祭・七五三の御祝、また喜寿・傘寿など身近な内祝いの宴席場としても多くのご利用をいただいております。

神社会館として廉価で安心してご利用いただける親しみ易い施設を目指していきますので、特に地域の皆様にはお気軽にご利用くださいますようお願いをしております。



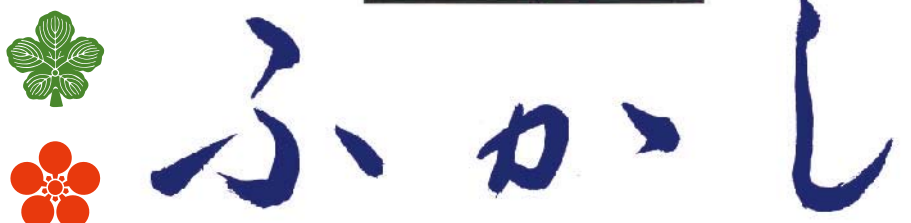
松村料理長

《問い合わせ先》
深志神社梅風閣
Tel.0263-32-6310
0120-122829
http://baifukaku.jp/



天神まつり

深志神社 例大祭



深志神社社報 第10号

平成22年夏号

深志神社は信州松本城下
南深志の地四十八ヶ町
氏子の守り神さまです



もうすぐ天神祭りです

【前夜祭】7月24日(土)
17:00～ 舞台曳き込み
17:00～19:00 日本舞踊奉納
19:00～ 前夜祭神事
20:00～ 詩吟・剣舞

【例大祭】7月25日(日)
11:00～ 例大祭神事
13:00～ 穂高太鼓奉奏
14:00～17:30 御神輿御巡行
15:00～ お囃子スクール(演奏発表会)
15:30～ 舞台出発



宝物が
市重要文化財に指定

去る平成21年12月、松本市教育委員会より指定されました。指定書の内容を左と下に紹介します。また、この宝物については本社報第6号(平成20年夏号)に由来などを紹介しています。なお、当社の市重要文化財指定としては昭和44年の神輿2基(元禄11年、奉納)に次ぐものです。

名称 深志神社の宝物	
概要	員数 3
〈内訳〉 (房子をき)	菅神像
	鏡
	宮形
	1対 1基 1体



宮形(みやがた)

深志神社を勧請した小笠原秀政の遺品と伝えられ、小笠原氏の深志神社への信仰を示す資料として価値が高い。また、工芸品としても価値の高いものである。
神像は高さ4.5cm、厨子は12cmを計る。宮形はこの菅神像を安置するために同時に寄進されたものである。唐獅子牡丹などの桃山調の極彩色の絵画が描かれている。高さ68.5cm、奥行44cmを計る。鏡も神像及び宮形と同時に寄進されたものと伝えられ、小笠原氏の家紋である三階菱紋が付く。高さ23.5cm、奥行23.5cm、幅は前方が12cm、後方が9.5cmを計る。



三階菱紋の鏡(あぶみ)

菅原道真公像

八坂祭でお子様の
健やかな成長をお祈りしましょう

八坂神社は、病気除け・虫封じなど子どもたちの健やかな成長を祈る守り神です。7月14日の宵祭には五色の幟を奉納する多くの子どもたちのお参りで境内は賑わいます。あわせて家内安全を家族で祈る姿が多く見られます。

三〇〇年ほど前の元禄13年(一七〇〇)、松本地方に疫病が流行しました。そこで疫病除けの神と

して信仰を集めていた津島神社(天王社、愛知県)から分霊をいただき祀りました。
なお、五色の幟紙と霞はスーパ、八百屋・魚屋などや、また当社でも扱っています。

奉納
八坂大(明)神
(主祭)・牛生(〇歳・文男)・氏名



深志神社の神さまが、年に一度、町内を巡られます。どうぞお迎えください。

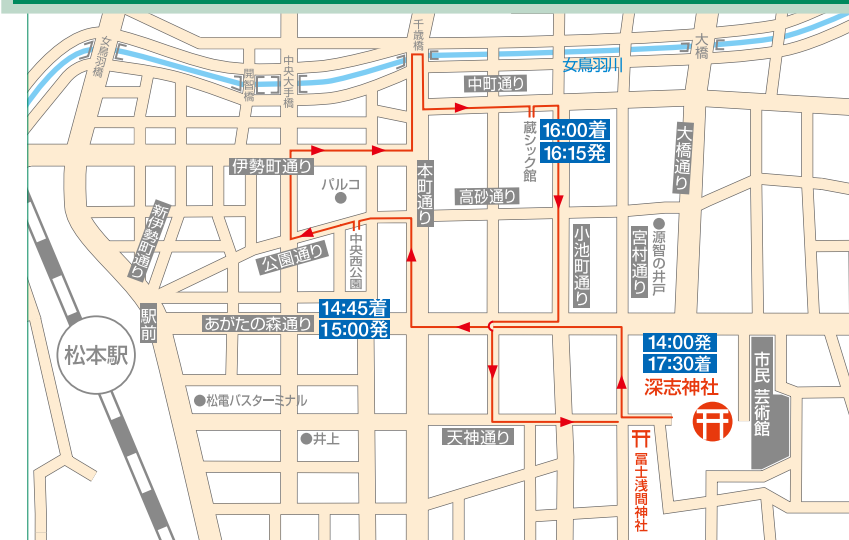


お神輿をお迎えしましょう

- ◆一年に一度のご神幸では、氏子の平安をつねにお守りくださる氏神様が、氏子地域を巡り、皆様の生活をご覧になると共に、氏子の方々が神様を身近にお迎えし、感謝の祈りを捧げます。
- ◆中心市街地を巡られる元禄神輿は松深会の万燈神輿のあとに、また氏子全域を巡られる車載のお神輿は先触れの広報車が通って間もなく参りますので、家族そろってお迎え、おまいりください。家族の平安な姿こそ、神さまがもっともお喜びになります。

〔お注連についてお願い〕
町内に張られた注連縄を取り外すのはお神輿が通られた後としてください。

元禄神輿渡御巡路 B 宮村宮神輿



信州松本松深会ほかの人たちの奉仕により、かつがれて渡御します

神輿かつぎを
奉仕しませんか!!

天神祭りのご神幸(25日)で、お神輿をかつぐ方や威儀物神様をお守りする櫓や鉦などを持っていたり、方々(神輿渡御奉仕員)を大募集!!女性も歓迎。氏子や、その他どなたでもお祭りにご奉仕できる貴重な機会です。ご希望の方は神社までお申し込みください。



境内めぐり《1》石造狛犬

境内には石造の狛犬が2対あり、邪を払い神様を守護する共に参拝者を見守り続けています。1対は西正面参道の鳥居の前脇に、もう1対は拝殿前脇に。
前者は、元は享和元年(1861)に本町飯田町の倉科氏ほか有力町人4名が奉献したのを明治32年、御正忌千年祭に有志町会等により台座を改修し、神楽殿の前にあったのを昭和27年、千五十年祭の際に今の処に移し再建されました。(なお口が、向かって右は呼閉じ、左が阿(開く)となっており、一般とは逆です。)
一方、拝殿前の狛犬は昭和3年、県社昇格記念に有志奉賛者により奉納されました。



氏子総代時代を顧みて

水野 秀一

(名誉氏子総代・元氏子総代会副会長・梅ヶ枝町)

平成10年7月総代会総会に、梅ヶ枝町会の推薦を得て待望の神社総代に時の林克三宮司から委嘱を受け就任したのは昨日のように思えてなりません。神社のお膝元の町ゆえに神社の梅鉢の紋を頂いて町名にしたという由来を聞くにつけ、私の神社に寄せる思いは子供の頃から熱いものであります。その頃の思い出には、今の市民芸術会館の地には深志公園があり、野球場(旧松本商業式野球の練習グラウンド)で、祖父の嘉一郎が仮設興行を営みました。当時の柴田、木下、矢野の三大サーカスが天神祭りと四柱神社の神道祭りには必ず興行がかり、象さんやお馬さんなど沢山の動物が芸を見せて夜遅くまでサーカスの音楽が聞こえていたものでした。長沢川の道路端には小物のお化け手品師の小屋が立ち、お代は見てのお帰りの掛け声で大変な賑やかさが走馬灯のように目に浮かびます。

また、林宮司は私の父栄治郎が第二班年番長の時に、長野県護国神社から招請されました。その後父の総代会長

時代には毎夜のように我が家に來られて、母のもてなしで夕食を楽しんでおられた姿を思い出します。父の亡き後、宮司は長野県神社庁長に就任し、そして懸案の「梅風閣」の建設を計画されました。丁度その頃小生宅の建設に携わった設計事務所長からの依頼で、宮司に紹介して梅風閣の建設設計、管理監督の任に当たり携った経緯も思い出となります。

総代を務めはじめて神社の行事に参加してから、先輩総代のご意見などを拝聴して、神社境内の整備などを考える運営委員会の末席を汚す立場になりました。幼少の頃から愛着を抱いていた森の鎮守府として境内に梅木が少なくとか庭砂利や道路の手入れ、また参拝客の駐車スペース等が気になり委員会へ問題を提起し、話し合いました。そして総代会の運営も年を追うことに良い雰囲気醸し出されて来たなと思うようになりました。

特筆すべきは御正忌千百年祭に募財委員長を仰せつかり、神社本殿の大修ほか諸記念事業遂行のため、氏子四

十八町会の総代が地元町会の最大の協力を得て、見事に募財目標額を突破し諸事業を成功に導くことが出来ました。そのことが氏子総代としての奉仕の最大の思い出であり、当時の総代と町会長各位に深甚なる感謝と敬意を表したいと思ひます。

神社総代は町会の名誉職に思われていましたが、現実には職業を持っている現役は奉仕の精神だけでは活躍出来ないことを退任してから知り、今になってしみじみ余暇と時間の貴重さがわかる気がします。総代、幹事や役員の皆様は本当にご苦労様です。

総代・年番は年間を通じ例大祭小祭ほか全ての行事の遂行責任があります。老婆心のようなですが、役員の選考にしても年功序列に拘らず、次の若い世代の有能な総代を選び継承していくことが必要です。神社の経営・運営にあたっては常に総代会は民主的な開かれたものとし、各総代の意志や考えを尊重して、より良い総代会を構築して下さい。総代各位のご健康と大いなる活躍と祈念して思ひ出を語り終えます。

終わりに平成21年の神社例大祭に遠藤宮司さんの御依頼により、水野忠直公寄進の神輿提灯が破損したので、その修繕を乾瑞寺第17世として奉納させて頂いたことを申し添えます。



向かって右側



向かって左側



向かって右側



向かって左側